

2004
賀
年

A HAPPY NEW YEAR Time

あ~した、天気になあれっ!
叫んで思い切って空に向かって足を振り上げ、高く高く下駄を飛ばす。
高く飛んだ下駄は、地上目掛けて落下して、二度か三度跳ねて転がる。
それを見て子供たちはげらげら笑う。鼻緒が上なら天気、歯が上なら雨。
傾いて止まれば、曇りだ。跳ね方で、曇りのち晴れ・・・なんて読み方もある。
子供の頃、天気予報はいつでもそんなものだった。
夕暮れのカラスがどっち向いてたか、カエルが鳴いたとか。
結局のところ、お天気なんてどうでもよくて、下駄を飛ばすのが楽しかった。
でこぼこの地面をからんころんと転がる下駄を見てげらげら笑いたかっただけなんだろう

夕暮れ時の、長くのびた自分の影をみてよく寂しくなった。
お豆腐屋さんの物悲しい笛の音で泣きだしそごにもなった。
竿竹屋も、納豆売りも、物売りの呼び声はなんだって物悲しかった。
家の玄関先に、決まってお正月に現われる、奇妙な出で立ちの
三河漫才の二人組み。なんだか怖かった。
時々十円玉をくれる近所の腰の曲がった、鼻の長いおしいさんも
なんだかすこく怖かった。

あんなに、寂しくて、あんなに怖かった思い出が、
今ではなぜだか、とつても懐かしい・・・
この先道がどっちへ伸びていても、
空に下駄を飛ばして決めればいい。
そして、下駄が転がるのを見て、
げらげら笑っていよう



人は 時を見る ことなどできない。
見ることができるのは、
時計 なのである。
寺山修二の仮面画報

A MIGHTY PITCHER



COLUMN 鎌倉の猫事情 第三十九話

新年あけましておめでとうございます。
鎌倉の猫事情は第三十九話となり、グーニー君の方は今年で5回目のお正月を迎える事ができました。5年間の猫事情を振り返ってみると、色々な事件がありました。グーニー君にとつても、実り先苦労もある歳月だったと思います。

鎌倉は毎年のように、初詣の人達で賑わっています。人間達は初詣ばかりでなく、やれおせち料理だの、お雑煮だの、お年賀だのと、せっかちに動き回っています。お正月には箱根駅伝まであります。次から次へと色んな人が禪をかけたては、丸二日間も走っているのですから、走るほうを見るほうは本当に忙しいことです。

猫達にはお正月はないんでしょうか？
まあ猫同士でおめでとつてこともないでしょうが、案外人間界の変化は、感じている事と思います。グーニー一家の猫達は、鎌倉の街中と言わず、山の方までも足を伸ばして歩きまわっているのです。特に一家の主たるグーニー君は、駅で見かけたとか、大通りへ向かって歩いているのを見たとか、源氏山まで出かけてるといような話まで聞きます。出かけるばかりでなく、行く先々で挨拶に立ち寄り家まであるようで、まあまあ随分あちこちのお家で、色々頂いては食べさせて頂いているようです。近頃は、通りのお肉屋さんのお馴染みになったと見えて、私が買い物などで通りかかるたびに、お肉屋さんの裏口で神妙な顔をして座っているのを見かけます。いつもいつも美味しいお肉のきれっぱしを頂いているらしいです。そんな時グーニー君の方で私を見つけると、なんだかんだと話し掛けてくるのですが、私の方ではお肉屋さんの手前決まり悪いですから、振り切って逃げてくるんですが・・・

お正月ともなれば、お馴染みのお肉屋さんだってお休みでしょう。いくらすばしこい猫の足でも、満員電車のなかみだいに込み合う小町通りを駆け抜けることは容易ではないでしょう。まして駅に近づいたら、人の波で踏み潰されてべたんこになるのがおちです。結局お正月は家の屋根で昼寝でもするんでしょうね。屋根の上から失礼ですが、
本年も、鎌倉の猫事情をよろしくお願ひいたします。



to be continued